

景観を守り育てるまちづくり

紙上版
市長と語ろう
明日の彦根

自然豊かな川や山並み、調和のとれた建物の連なり……美しい景観は、見る人の心を和ませ、豊かにしてくれます。驚きや親しみ、郷愁など、良好な景観は人々にさまざまな感動を与えます。

「良好な景観」は、単に「美しい景色」だけを意味するものではありません。活気あふれる商店街、実り豊かな田畑などは、そこに住む人たちのいきいきとした生活を思わせ、歴史あるまち並みは古くからそこで暮らした人たちの物語を感じさせます。

「快適なまちを創る景観条例」は、その第1条で「市民の生活の姿である景観を保全、育成または創造し、人とひと、まちと人が豊かにふれあう魅力

あるまちとすることを目的とする」とうたっています。まちの主役がそこで暮らす市民なら、都市景観は、主役を演出する舞台装置なのです。

昨年10月に、市民が誇りや愛着を感じるまちづくりを目指して、旧外濠や松原内湖などに囲まれた彦根城郭・内曲輪・内町地区を「都市景観形成重点地区^(注1)」に指定しました。

市では、対話の行政を推進する施策の一環として、市民の皆さんに市長と直接対話していただく場「市長と語ろう 明日の彦根」を設けています。市民の皆さんの景観への思いは、どのようなものでしょうか。今回は、「紙上版 市長と語ろう 明日の彦根」と題して、まちづくり活動などにかかわる皆さんに語っていただきました。

^(注1) 快適なまちを創る景観条例」に規定する、彦根らしい景観の保存・形成のため、特に必要がある地区について区域を指定し、ゆるやかな景観基準を定めた地区



上空から見た彦根市北部

出席者(順不同)

伊代田由喜さん(竹ヶ鼻町)

滋賀県立大学 4 回生

北川はつゑさん(鳥居本町)

「ふるさと鳥居本」会員

唐染寧さん(尾末町)

中国・湘潭大学副教授

林みさ子さん(本町二丁目)

小売店経営

中島 一

彦根市長

彦根の景観 皆さんの印象

市長 皆さん新年明けましておめでとう
うたいます。

昨年を振り返ってみると、社会的にも経済的にも非常に難しい年でした。地方分権が進み、市民の皆さんにはこれまで以上に協力いただきました。今年には市町合併の話合いもさらに進み、本格的な地方自治の時代が来ると期待されます。

この座談会では、ご出席の皆さんそれぞれのお立場でもう一度彦根のまちを見つめていただき、景観をテーマにしてまちづくりについてご意見をいただきましたと思っています。

本市は、平成13年に彦根市総合発展計画「ひこね21世紀創造プラン」を策定しました。その将来都市像が「市民がつくる 安心と躍動のまち 彦根」です。まちづくりの主役は市民ですが、市民と行政のパートナーシップのもと進めていくということなのです。こうした座談会を通して、市民の皆さんのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

まず、彦根の景観について、日ごろ感じておられることとお聞かせください。

伊代田 大学でまち並み
みの保存について勉強
をしています。彦根の



林みさ子さん

景観のシンボルは、なんといっても彦根城です。そういう存在は、大切にしていきたいかと思いますが。

北川 「ふるさと鳥居本」という会を12年前に立ち上げ、中山道の宿場町鳥居本の面影を少しでも残していきたいという学習活動をしてきました。

鳥居本は、昔は北国街道の分岐点で、現在でも国道8号や近江鉄道、名神高速道路が通るなど交通の要衝ですが、高齢化が進んだ影響か、雑草が生い茂る休耕地が目立つようになりました。何とかしなければ、と思っています。

唐 95年に中国湘潭大学からまいりまして、滋賀大学の修士課程で学び、現在は関西大学の博士課程で勉強しています。住まいは尾末町ですが、夜になると、お城や佐和口多聞櫓がライトアップされて非常に幻想的な風景になります。400年前にタイムスリップしたようで、日ごろの疲れが癒やされ、心の安らぎをもたらしてくれそうです。

林 夢京橋キャッスルロードで酒屋を営んでいます。キャッスルロードは、お城から南へ出てきたすぐのところにあります。

道路拡張の計画をきつかけに本町まちなみ委員会が発足し、長い期間話し合ってきたきれいなまち並みをつくりました。完成して

からはたくさんのお客さんがおいでになり、住んでいる私たちも毎日、気持ちよく働いています。

市長 彦根には、春夏秋冬四季折々の風情があります。四季の移ろいを感じ、その中に美しさを感ずることが出来ます。それは市民の心の形成に、大きく影響しているのではないかと考えています。全国どこへ行っても、駅前通りは同じような顔、形を持っています。数少ない例外の一つが彦根です。駅正面から見える彦根城天守が、歴史、伝統を我々に呼びかけてくれているのです。先人が築いてくれた彦根には、特色のある美しい景観が備わっていると思つのですが。

唐 歴史と文化を生かし、地域の住民や訪れる観光客にとって魅力と活気あるまちづくりが、着々とすすめられているように思います。夢京橋キャッスルロードや四番町スクエアなどがその具体例ですが、私は非常に興味をもって見ています。



彦根市長 中島 一

されるわけではありませぬ。平成8年4月に施行した「快適なまちを創る景観条例」では、景観は市民の生活の姿だと定義つけています。

^(注2) 平野の周辺部から山間部に至る、まとまった平坦な地が少ない地域のこと

市長 彦根市は湖岸線が長いまちです。その中に、中山間地域^(注2)、田園地帯、商工業区域、住宅地など多様な側面を持っています。景観は彦根城だけに代表

地域の個性と
まちづくり

市 夢京橋キャッスルロードはびっくりするくらい変わり、観光客が多く訪れるようになりまして。市場、花しょうぶ通り、登り町グリーン通り、おいで

北川 鳥居本には自然の豊かさがあり、初夏の青々茂る若葉、秋の燃えるような紅葉の山並みを見ると、鳥居本に来てよかった、住んでよかったと思つています。しかし、自動車の交通量が多かったり、近くにお店が少なかつたりして、高齢者には住みにくい面もあります。また、農家は後継者の減少や大型農機具の個人所有など、さまざまな問題を抱えています。

市長 鳥居本は高齢者の割合が市内でも高い方ですから、そうした方々が住んでよかったと思えるまちづくりを考えなくてはならないでしょう。中山間地域が多いので、それを生かして心豊かに生活していただくことも可能だと思います。農業については、意欲ある農業者を積極的に支援するために、いくつかの事業を実施しています。

林 夢京橋キャッスルロードはびっくりするくらい変わり、観光客が多く訪れるようになりまして。市場、花しょうぶ通り、登り町グリーン通り、おいで

やすなどの各商店街も、ファサード整備事業でたいへん美しくなってきました。

市長 商店街への支援は、お店が発展するためだけに支援しているわけではありませぬ。商店街のにぎわいを中心に、そこに住む高齢者や子どもたちなど、多くの市民がいきいきと暮らせる、いいコミュニティをつくっていただくというところに支援をさせていただいているのです。

伊代田 キャットスルロードだけでなく、芹橋の足軽屋敷跡や七曲がりなどのまち並み保存をやってもえれば…。古いまち並みの残る景観は、見る人の心を癒やす働きがあると思います。

市長 まちには暮らしがあり、住む人の生活があります。まち並み保存を考えたとき、そこに住む人が快適に住んでいただけるかを考えなくてはなりません。薄暗い、古い住宅では、新しい生活も出来にくいと思っておられる人もあるでしょう。一方で、歴史と伝統を受け継ぎ、地域の特徴を生かしてこそ、



北川はつるさん

てきた歴史のあるものよりは、高層ビルなどに象徴される近代的なものに憧れているように思います。そうした状況は日本でも中国でも変わらないと思います。

まちをつくる心のつながり

伊代田 まちづくりの基本は市民がつくるものだと思います。住んでいる人がどう思うか、よそからきた人が市民とかわりをもつてどのように感じるか。市民がいて建物があるわけですから、都市景観形成の中では市民が最も大事だと思います。

林 私は、住んでいる私たちが明るくすること、いいまちづくりができるのではないかと思います。阪神大震災で被害に遭われて、神戸にいられないか

その地域に住む人の責任と考える人もたくさんおられると思います。鳥居本には、400年の歴史を持つ中山道沿いのまち並みがあります。そこでは、住宅を建て替えるときに、町家風の外観を残すようにしている人もおられます。そのような人が、地域の景観を受け継いでいってくれるのではないのでしょうか。

出会い、発見 喜び



暮らしたにもある歴史的なまち並み(高野町)

林 まち並みを美しくしたからお客さんがたくさん来るとは限らないのです。私は商売をしています。毎朝店の周りを掃き水をまき、窓を拭いて、「さあ来い」という気持ちを持ってこそ、初めてお客さんに来ていただけると思っています。また、1度来たお客さんには、2度、3度と来ていただくようにする、そして、1人で来たお客さんには、次は2人、3人で来ていただく、そのように持つていくためには、日々努力が必要です。

市長 それがおもてなし、ホスピタリティの心です。これがなければいけないですね。

らと来られたお客さんが何人もいるのです。その方たちは彦根に張りつめた気持ちを一服させに來られたんですね。また、時々一人旅の途中というお客さんが来られますが、その方たちは何かを話したくてこられます。そうしたお客さんとは、商売を抜きに連絡を取り合ったりしています。

そういう出会いのあるまちにするには、植え込みの手入れなどをきちんとし、まちをかわいがっていくことが大切ではないでしょうか。

市長 そのためには、地域のことはそこに住む人たちが中心となり、知恵を出し合い協力して考えていく、ということが大事になりますね。

北川 いいまちをつくるには、人と人の心のつながりがある、その中でいきいきと生活していくことが大切ですね。それによってまちが形成されていくと思えます。高齢者の方

が語らうことのできる場所を4年前鳥居本に設けたのも、そうした理由からです。

新しい年も力を合わせて創る景観条例



まちを訪れる人と会話ができるまちづくりができると思います。

市長 これからは都市観光が重要です。せっかく来ていただくのですから、「売らんかな」でなく、何か発見できるようなことはないだろうか。例えば鳥居本の合羽などは、訪れる人にとって意外な発見であり、会話のきっかけになるでしょう。それが喜びや、楽しみのあるまちづくりにつながると思います。

北川 ほかに、佐和山城の表は彦根方面だと多くの皆さんが思っておられます。そうした人には鳥居本側が正面ですと言っとびつくりしておられます。そうした歴史を忘れないことも大事ですね。

まちの魅力と人の心

市長 彦根のまちも最近変わったと言われていますが、道も建物も整備して美しくするだけでなく、住んでおられる人の心もきれいでないとけませんね。昨年10月に「彦根市ごみの散乱およびふん害のない美しいまちづくり条例」を施行しましたが、罰を受けるからきれいにするという気持ちでは、よいまちにはならないのではないかと思います。

唐楽寧さん



の制定を受けて、住民の皆さんが自らいい景観をつくっていくこととする動きが出てきました。平成12年には、新浜地区が「緑と水辺に調和したやすらぎのある街づくり協定」を結んで、高層ビルは建てない、敷地に占める緑の割合を決める、などと協定しています。また、平田川沿いに桜を植え、桜の通り抜けをつくるという市民の団体を「都市景観形成市民団体」として平成13年に認定しました。

さらに、彦根ならではの風格あるまちを創るということで、彦根城を中心とした旧外濠で囲まれた地域を、昨年10月1日に「都市景観形成重点地区」に指定し、市民、事業者の皆さん方に、歴史と伝統を守っていくための理解と協力をお願いすることにしています。最後に、皆さんのまちづくりへの夢をご紹介ください。

北川 中山道鳥居本宿の良さを後世に伝えるために、写真や地図を残していきたいと思っています。さらに、鳥居本の歴史や伝統に対して広く住民に関心

伊代田由喜さん



唐 湘潭大学の学長が昨年来日し、各地を視察しました。私が「印象に残ったまちはどこでしたか」と尋ねたところ、「静かだけれいな彦根のまちが気に入りました」と言われました。歴史、文化、自然の景観はもちろんです。地域の人の心の温かさがプラスされたのではないのでしょうか。ぜひ、目に見えない要素を大切にしていきたいものです。

伊代田 お城近くの市街地は、観光客や建築を勉強している私にとって、魅力のある素晴らしいまちです。そのことを、学生や地元の若い人はどう思っているかを知りたいと思います。実は、県立大学の学生の多くは、自転車で行動範囲にしていて、彦根駅方面へ来ることはほとんどないのです。お城の周りに、学生、市民、観光客が触れ合える空間があると変わって来ると思っています。

唐 中国では、経済が急速に発展している、若者にとっては先祖から伝えられ

を持っていただき、輝くまちにしていきたいと思えます。

唐 彦根は観光の名所として知られています。地域の住民が暮らしやすいまちづくりも大切ですが、彦根のまちの個性を生かして、観光客にとっても魅力あるまちづくりも引き続き進めていくて欲しいと思います。

林 お城を大切に、外から来られた方も、自分もいっしょに楽しめるようなまちをつくっていききたいと思えます。

伊代田 私は、学生という立場から、彦根をもっとよいまちにできたらなあ、と思っています。

市長 私は、市民の皆さんと知恵を出し合い、それぞれの地域の特色を生かして、オンリーワン、すなわち、ほかにはない彦根ならではのまちづくりを進め、安心して快適なまちづくりに進んでいきたいと思っています。皆さんのお話を聞きながら、こちらからためて責任を感じています。がんばっていかなくてはならないという思いです。

彦根市総合発展計画の将来都市像「市民がつくる 安心と躍動のまち彦根」を目指して、21世紀初頭をがんばっていききたいと思えます。行政だけでなくまちづくりをすることはできません。市民、事業者、専門家、行政が、ともに知恵と力を出し合いながら彦根の景観づくりを進めていきたいと思っています。

皆さんから貴重なご意見を伺うことができました。どうもありがとうございました。